

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー

# CLOVER



発行表 NPO法人地域医療を育てる会  
藤本晴  
http://iryousodateru.com/  
第55号 平成24年7月5日発行  
東金市東金1142「東金の家」5  
TEL:090-7634-7175

今年4月22日「旭中央病院、救急を制限」という見出しの記事が朝日新聞に掲載されました。旭中央病院は、私たち山武地域の住民もいざという時にお世話になっているのか、現場のスタッフの方々にお話を伺いました。いったい、どんなことが起きているのか、現場のスタッフの方々にお話を伺いました。

## 大切な救急医療を、私たちが支えるために



去る5月23日、取材で訪れた私たちを迎えてくださったのは、同病院救命救急科の伊藤史生(ちかお)医師と、医療連携福祉相談室の高山美津子係長、平野陽一朗主任、そして福島理絵広報室長の皆さんです。まずは旭中央病院が救急患者の受け入れ制限をするに至った経緯をうかがいました。

と周辺市町村の脳卒中患者の受入を維持することが目的です。ちなみに、その他の一般救急患者は病名による制限は行っていないです。

旭中央病院では、救急車で運ばれてきた患者を救急救命科の医師が中心となって治療しますが、今回この科の医師にも減員があり、現在3名の医師で24時間三六五日をカバーするという厳しい状況となっています。(※今回退職された救急科の医師の退職理由は、所属する医局の方針やキャリアアップのため等だそうです)

旭中央病院では、昨年4月1日と今年4月1日の比較で、14名の医師の減員がありました。うち、9名が内科医です。旭中央病院では内科医が脳こうそくの患者の治療にあたるため(※脳外科は主に脳出血やくも膜下出血等手術が必要な疾患の治療にあたる)、現在、山武地域と鹿島地域からの脳卒中の患者の救急受け入れを制限しています。そうすることで旭市

### 医師の減員14名

旭中央病院が位置する香取海浜地域には、山武郡市のような医師会が行う夜間急病診療所がありません。夜間は患者の行く場所が同病院しかないのです。これも、患者が集中する一因となっているようです。

「救急患者さんをしつかり診

療したいという姿勢は全く変わっていません」と伊藤医師。ただ、夜間に救急外来に来る患者の中には、軽症の方もかなり多いそうです。高山さんはその理由をこう語ります。「当院は24時間・三六五日一次から三次のすべての救急を受け入れることを理念として掲げてきたため、何かあればすぐ当院の救急を受診するように担当医が患者さんに説明してきたこと、また、患者さんも同様の意識が強いことが一因ではないかと思えます。夜間に救急外来を受診する方が、昼間と同じ治療や検査を受けることが可能と期待している例も多いようです」



夜に受診をすることのデメリット、ご存知ですか

伊藤医師も「夜間の対応は重症患者さんを優先しますのでも、軽症の患者さんには応急的な診療をして、結局は翌日専門医の診察を受けていただくことになる場合がほとんどです」といいます。

輪番日以外の病院ではたとえ医師が当直していたとしても検査技師が不在で検査ができず、診断がつかないので受け入れ可能な患者に限りがある、という話は、山武地域の病院を取材した際にも伺ったことがあります。

せっかく病院に足を運ぶのですから、昼間専門の医師や検査技師がいるときに診てもらおう方が、私達としても安心ですね。また、昼間に受診しても間に合う人が夜に来れば、その分重症な患者の治療に時

間をかけることができなくなりますが、「もしも自分が夜中に命に係わる病気になったら」と考えて、なるべく昼間に受診をするようにしたいものです。そして、そうすることが、医師の負担を軽くすることにもつながりますね。

「最近では夜間の待ち時間も長くなりました。深夜0時以降は限られた医師・看護師体制で診療をしています。患者さんにはなるべく0時前に来て頂きたい、また朝6時に救急受診しないで8時になったら一般外来を受診して頂きたいと思います」と伊藤医師もおっしゃっていました。

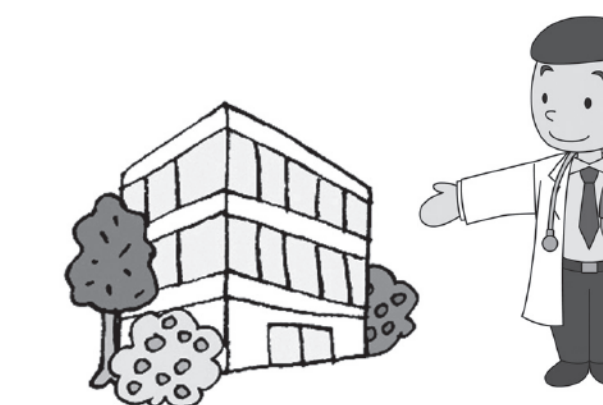
### 出口の渋滞？

実は救急受け入れの問題は患者がスムーズに退院できるかどうかにかかっているというところをご存知ですか？ 救急を受け入れる病院では、ある程度症状が安定した患者に次の施設（病院・老人保健施設など）に移っていただき、命に係わる患者の入院用ベッドを空けておく必要があります。退院がスムーズにいかないと、ベッドが満杯で、入院が必要な患者を最初から断らなくてはなりません。「山武郡市から当院に入院した患者さんのうち、年間

約一四〇〇件の退院先を探すのですが、そのうちの15%（約二一〇件）は自宅に戻れません。さらに、その中の4分の1（約五〇件）の方は、山武地域の医療機関に入院・入所できません。山武地域には療養型病床を持つ医療機関が一つしかないという受け皿不足の問題に加え、患者さんやご家族の意向もあって千葉市等周辺市町村を含め入院・入所先を検討されています。成田市のほうに転院されることもありま

「と平野さん。その1つしかない医療機関もベッドに余裕がないので、退院のための調整はいつも大変なのだそうです。こうしたいわゆる「出口の渋滞」が、救急患者の受け入れを難しくしていることも見過ごせない問題ですね。

このような状況にある旭中央病院ですが、福島さんはこう呼びかけています。「医師の減員も一因ではありますが、当地域にはもともと医療資源が少なく、どうしても当院に患者さんが集中してしまします。これでは患者さんが本来必要とする適切な治療を受けられないことになり、患者さんご自身の不利益にもつながります。軽症の場合は近隣のかかりつけ医を活用するなど



して是非ご協力ください。もちろん、当院も全力で医師充足にあたっています。」

コンビニ感覚で救急を受診してしまうという住民の意識改革とともに、退院後の介護・福祉サービスの充実も、救急医療を支える大きなポイントだと感じました。旭中央病院のお話は、どの地域で起こっても不思議ではありません。

この問題には様々な事柄が関わり合い、解決は簡単ではありません。これからも、地域医療を育てる会として出来ることを考え、お手伝いをさせていただきます。こうと思っています。

（藤本晴枝）

旭中央病院救急外来で受け入れた 年度別山武地区患者統計

	患者数	救急車数	脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	左の3疾患合計	入院数合計
H23年度	3937	406(219)	43(23)	30(26)	7(7)	80(56)	553
H22年度	4169	462(234)	42(18)	28(22)	2(2)	72(42)	513
H21年度	4213	463(241)	36(22)	31(28)	6(6)	73(56)	573
H20年度	3975	518(297)	71(42)	31(28)	10(10)	112(80)	576
H19年度	4149	473(244)	63(38)	28(25)	5(5)	96(68)	551
		()は、入院患者数					

表の見方  
平成23年度は、3937名の患者が山武地域から来院し、そのうちの脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の患者数はそれぞれ43、30、7名でした。平成23年度に救急車を利用した患者のうち、入院した患者は219名で救急車利用者の約54%、入院をしなかった患者は187名で救急車利用者の約46%です。今回、病院が救急の受け入れ制限をした3つの疾患の患者合計は80名、そのうち入院した患者は70%の56名です。

**NPO法人地域医療を育てる会の絵本**  
**「くま sensei no SOS」の新作が好評発売中です!!**  
**「くま sensei no SOS」第2弾**  
**「ルウとポノノ」**  
 500円(44ページ)

NPO法人地域医療を育てる会HPより購入できます。  
<http://iryuu-sodateru.com/kumasensei/index.html>